

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 31 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870500422		
法人名	医療法人 十全会		
事業所名	グループホーム「むつみの家」		
所在地	新居浜市中萩町9番52号 (電話) 0897-43-1022		
管理者	矢野幸男		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 6 月 17 日	評価確定日	平成 20 年 8 月 4 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 5 月 11 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 3 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	24 人
職員数	25 人	常勤 25 人, 非常勤 人, 常勤換算 23 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,032 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 5 月 11 日事業所記入)

利用者人数	24 名	男性 9 名	女性 15 名
要介護 1	3 名	要介護 2	9 名
要介護 3	8 名	要介護 4	4 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 86.5 歳	最低 71 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から南に少し入った閑静な住宅街で、周辺には学校、保育園、スーパー、郵便局等がある生活面でも便利な場所に建つホームである。民家改修型のユニットと新築の2つのユニット、居宅介護支援事業所を併設する管理棟が全て平屋で独立している。利用者をより深く知るため関わりを多くもち、その中で発せられた本人の言葉を記録に残し、思いの把握に努めている。さらに、家族からも本人の希望や生活歴等を聞き、利用者の立場に立った介護計画の作成と見直しに熱心に取り組んでいる。職員の異動がほとんどないことから利用者との信頼関係が築かれ

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
 前回評価において、災害対策として地域住民と合同の訓練実施を期待されていたが、その後の平成20年4月の訓練で自治会長の協力を得て地域の方8名が訓練に参加している。また、理念を見直し、地域の中で利用者の生活を支えていくことを推進し、地域とのつながりを深めている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
 ユニットごとに出勤者が話し合い、一つ一つの項目について丁寧に取り組みを振り返り、1か月から1か月半かけて作成している。職員一人ひとりが、振り返りによって気付いたことを具体的に取組みたいと意識することで、サービスの質の向上につなげている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
 ホームからは、活動状況、研修状況、行事、評価結果等について詳しく報告し、理解を得ている。地域の方から行事報告について、家族が参加しやすいよう予定を知らせてはどうかという建設的な意見も寄せられ、運営に活かしている。また、地域包括支援センター職員から、活動内容や利用の仕方についての説明会が開かれる等、地域の方々が行行政の取り組みを理解する機会としても活かされている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
 家族が遠慮することなく意見や要望を述べられるよう、話しやすい雰囲気づくりに努め、面会時には声をかけて利用者の暮らしぶりや健康状態について伝えている。また運営推進会議には家族を全員招き、家族会も開き、意見を出す機会を多くしている。円滑かつ迅速に苦情に対応する体制も構築している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
 地域行事の敬老会、運動会、夏祭り等に利用者と共に参加している。ホーム行事にも地域の方を招いている。今後はさらに、地域の方が気軽にホームを訪れるような関係を作っていきたいと考えている。毎月、民謡や読み聞かせ、傾聴ボランティアが来訪し、利用者とは交流している。自治会長、民生委員が自治会の方にボランティアの参加を呼びかけるなど、非常に協力的である。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームむつみの家

(ユニット名) 1 棟

記入者(管理者)
氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成 20 年 5 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 開設当初の理念のままであり、特に地域密着型という観点から、作られたものではない。 (外部評価) 「のんびり、たのしく、いっしょに」という理念は開設当初から変更していないが、地域密着型サービスとしての役割について考え、理念を見直した。利用者が、地域の方々との交流を通してその人らしく地域の中で暮らせるよう支援していくことを理念として再構築している。		現在ある理念を、もっと広い観点から、理解を深めていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) そのように、努力はしているが、常に意識出来ているわけではない。 (外部評価) 理念を各ユニットで具体化し、月間目標や行動目標に掲げ、共有できるよう努めている。理念の実践のため、ケア際には利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿えるよう利用者の言葉を傾聴し、尊厳を守りながら信頼関係を築くことを念頭に置いている。		日々の取り組みの中でも、常に意識していき、最終的には意識しなくても、実践出来るようにしたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等で、家族・地域への働きかけはしている。		もっと、多くの方に参加を呼びかけたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 出来る限り、挨拶等で、努力は出来ている。		気軽に立ち寄ってもらえる位まで、親しくなれるようにしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 交流に努めている。 (外部評価) 自治会に加入しており、利用者とともに地域行事の敬老会、運動会、夏祭り等に積極的に参加し、地域の方と交流している。ホーム行事にも地域の方を招待している。また、地域のボランティアグループが毎月ホームを訪れ、本の読み聞かせや民謡、利用者の話の傾聴などを行っている。クリスマス会では保育園児との交流もある。		もう少し、交流の場を増やして行きたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で、地域の方も交えて、認知症についての、講義を行ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 意義は概ね理解していると思うが、具体的な改善に向けて、取り組むまでには、至っていない。 (外部評価) 評価の意義を理解した上で、丁寧に一つ一つの項目を出勤者で話し合い、ユニットごとに自己評価している。全てのユニットの自己評価を管理者が確認し、運営者、家族、地域の方に報告している。評価をすることで日々の取り組みを振り返り、今後取り組んでいきたいことをユニットごとに検討している。		評価も活かし、今後も改善に向けて、取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 参加するスタッフが限られる為、運営推進会議がスタッフ間に浸透していないので、十分に活用されていない。 (外部評価) 全ての家族が毎回参加できるようにとの配慮から日曜日に開催しているため、家族の参加が多い。自治会長と民生委員が協力的で、積極的に意見を出してくれるため、地域とのつながりは深まっている。ホームも現況報告や評価結果等を詳しく知らせ、理解を得ている。地域の方と行政の情報交換の場としても有効に運営されている。		職員も運営推進会議に参加して、活用して行きたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 詳しくは、把握出来ていない。 (外部評価) 主に管理者が行政との連携の役目を果たしている。提出書類等を窓口で手渡すよう心がけ、その都度情報交換や相談をしている。運営推進会議に職員も多数参加し、市の取り組みを理解している。また、市図書館職員も毎月読み聞かせでホームを訪れ、図書館で月100冊の本を借りられる体制ができている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 個々の勉強不足もあり、理解できていない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学習会は連絡協議会にて行われたが、多くの職員の参加が、出来ていない。また、未だに、言葉の虐待を感じる事がある。		勉強会への参加、職員間や、個々の意識づけが、出来るように努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が説明をし、納得してもらっている。職員は契約には関わっていない。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉や、態度から、その思いを察して、不安を取り除く努力はしている。	※	外部者（家族等）への協力もお願いしていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 金銭面は毎月、利用明細書を送付している。状態の変化はその都度、電話連絡をおこなっている。 (外部評価) 家族の面会が多いため、その都度声をかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。健康状態に変化が見られた場合は電話で連絡している。2か月に1回発行のホーム便りに利用者の写真や行事での様子を載せて送っている。金銭管理の報告も適切に行っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・苦情は、管理者が、受付しており、あれば、職員との話し合いの場を設けている。 (外部評価) 面会時に声をかけ、家族が意見を出せるような雰囲気づくりに努めている。運営推進会議やサービス担当者会議、年2回の家族会など家族が意見を出せる機会が多いが、管理者と職員は、家族が遠慮なく意見を述べられるよう、さらに良好な関係づくりに努めたいと考えている。苦情や相談が寄せられた際には、迅速に対応している。	※	家族等が自由に意見を述べられる、雰囲気作りに努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 部署会・勉強会は、月1回、個別面談は、必要の応じて行っており、運営者にも意見は聞き入れてもらえている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要な人員確保は出来ていると共に、利用者・職員の急変時にも応援体制が出来る配慮はしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 必要最小限に抑える努力はされていると思う。 (外部評価) 利用者との馴染みの関係を大切にすることを深く認識しており、職員の異動はほとんどない。職員が交代する場合も利用者へ説明し、影響に十分配慮している。		同じ配置が長くなる事で馴れ合いの可能性も出て来る為、その点の配慮も必要になってくると思う。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会等への参加を促し、育成して行こうと取り組まれている。 (外部評価) 外部研修への参加は、職員の経験に応じてユニットリーダーが研修計画を立て、参加職員が偏らないよう配慮している。また、法人内の勉強会にも参加している。研修内容を報告し、職員間で共有している。運営者は研修参加費用負担などで参加しやすい体制を作っている。		職員個々からの積極的な参加を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者の交流会は定期的に持てているが、職員の交流の機会は特にもたれていない。 (外部評価) 当ホームの管理者が主体となり、市内のグループホーム管理者が集まり、情報交換している。今のところは管理者だけであるが、今後は職員も参加できるよう考えている。また、グループホーム連絡協議会主催の相互研修にも毎年参加している。同業者との交流は、他ホームの実践を参考にするなど、相互のサービスの質の向上のために活かされている。	※	管理者の交流会だけでなく職員間の交流が図れる取り組みを行いたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 充分でないと思う。	※	ストレス解消に向けて多様な配慮を望みたい。 (休憩時間、人間関係など)
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 取り組みはされていると思っているが、個々の向上心へは繋がっていないと思う。		個別職員の業務や悩みを把握して欲しい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前の見学、面接などの対応は管理者が行っている。入居後に家族から聴くことが多い。		入居前の面接等から職員も係わり、初期の段階からの関係が築けるとよいと思う。本人の表面的状態だけでなく、本人のニーズを聴き出せる支援、取り組みをしたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前の見学、面接などの機会があり、その際に、これまでの経緯、サービス利用の状況などを聴く様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 併設している居宅介護支援事業所との連携を図りながら必要に応じた支援を行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人・家族に事前に見学して頂いているがにじみの関係が出来ての入居ではない。 (外部評価) 本人及び家族がホームを訪れてホームの雰囲気をつかんでいる。病院からの入居がほとんどであるため自宅への訪問は行っていないが、徐々に馴染めるよう家族の協力を得ている。調査日も、帰宅願望のある利用者に対して関わる時間を多くし、一緒に作業したり、会話を楽しんだりしながら安心してもらうよう配慮していた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日々のふれあいの中で、不安・喜び・苦しみなどを読み取れるように努力したい。(信頼関係の構築) (外部評価) 食器洗いを利用者と一緒にしながら、楽しそうに会話をしている場面では、利用者の生き生きとした返事と職員の笑顔に日ごろの和やかな関係がうかがえた。職員から、食が進まなかった利用者が元気になって食べられるようになった時などに共に喜びを分かち合えるという話があった。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時やケア会議を通して情報交換をしているが、家族からの支援は充分とは言いがたい。 (個々によって違うが)		家族との信頼関係を築ける様なチャンスを作りたい。 (面会時に積極的に情報提供をするなど)

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族がうまく行くよう、支援をしている。 あまり深入りしない支援も必要と考えている。		本人・家族・職員間の距離の持ち方留意しながら取り組んでいきたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の意向を考慮し支援に努めている。		家族が面会に来たくなる・来易い雰囲気作りに努めていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の相性等を把握し場面場面で配慮した支援が出来ていると思う。		利用者同士の関わりがより良く持てる様にして行きたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 特に取り組みはしていない。		家族の意向もあり、難しい事ではと考える。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その都度、本人の希望や意向を聴く様に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりとの日々の関わりの中で気付いた利用者の言葉を個別に詳細に記録し、希望や意向を把握している。他の職員は記録を読んで気付きを共有している。なお、確認のためのサイン欄を設け、確実に伝わるよう工夫している。		いろいろな話に耳を傾けている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の触れ合いの中で、いろいろな情報を得るように努めている。		家族からの情報も、より多く得れるよう努力したい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 申し送りや記録等で、ある程度の把握は出来ている思う。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族と充分に話し合い、介護計画の作成が出来る様になっている。 (外部評価) 利用者の立場に立った介護計画を作成するため、センター方式のアセスメントを行い、情報収集に努めている。また、個別の記録に利用者の言葉を主体とする自覚的所見と職員による他覚的所見を記入し、それらを判断材料にして介護計画を立てている。なおかつ本人や家族にカンファレンスに参加してもらい、希望を取り入れている。	※	本人・家族の率直な意見が述べられる様な環境、話し合いの機会の充実を図りたい。 介護計画について職員全員が意見や気付きを出し合い、共通理解のもと実施していけるよう、勤務時間外の職員への配慮を考慮し、チームミーティングを開催するなどの工夫をすることを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 家族に対して現状説明等は行っているが見直しまでには至っていない。 (外部評価) 介護計画のサービス内容についての実施状況を毎日支援経過表に記録し、それを基に月に1回評価している。3か月間のモニタリングをサービス担当者会議にて検討し、新たな計画を作成している。その際にも本人や家族の参加を得て、希望を聞き、本人本位の見直しを行っている。		モニタリング・アセスメントを定期的に行って行く。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 諸記録(週間表・バイタル表・記録用紙)を利用。職員間の申し送りノートも活用している。		諸記録類が実践に反映出来る様に行きたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 現時点では生かすことは出来ていない。母体病院、協力病院などの活用は出来ている。 (外部評価) 家族の状況に応じて、通院介助や受診の送迎を柔軟に支援している。また、医療連携体制を活かし、認知症専門医の往診やホーム内の看護師の健康管理により、本人や家族の安心につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティア・保育園・自治会などの協力・支援が頂ける様になっている。		本人の意向と言われれば判断しづらい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 現時点では利用する事は出来ていない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議にセンター職員が参加。情報交換・協力関係は築けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的に担当医の診察を受けている。病院への受診においては家族の意向を聴きながら対応。協力病院、かかりつけ病院を利用している。 (外部評価) 馴染みの関係の大切さを十分理解し、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。母体病院の認知症専門医が2週間に1回往診しており、利用者の状態を把握したうえで適切な対応をしている。基本的には、利用者の状態把握のため家族に通院介助をお願いしているが、緊急な場合や家族の要望に応じて通院介助もしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 母体病院が専門医なので、診察時利用者本人からも相談している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 当ユニットには看護師が在中して折り状況に応じた支援をしている。不在時でも事業所の看護師と連絡が取れる体制になっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 家族との連絡は密に行うよう心掛けている。担当医から病院受診時の連絡なども取って頂いている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状況の変化に応じて、担当医、家族と相談しながら対応している。 (外部評価) 入居の際に、重度化した場合や終末期のあり方について家族に説明している。ホーム内に手すりを設置したり、段差をスロープにする等改善し、重度化した場合にも対応できるように取り組んでいるが、ターミナルの取り組みは考えていない。今のところホームの対象者は経口による食事が可能な方であり、状態変化の度に家族と話し合い方針を決めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 支援方法や事業所の方針等が、職員一人一人が十分に把握出来ていない。	※	いろいろな場面に備えて、事業所・管理者・職員間の話し合い、連携体制作りに取り組んでいきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 書面での情報提供が中心になっている。本人への説明は困難な場合が多い。		本人への説明は難しい時が多い、関係者間の情報交換に努めていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の取り扱いについては、家族の理解を得ている。しかし、言葉掛け対応の徹底が出来ていない。 (外部評価) 利用者の誇りやプライバシーの確保への配慮は十分されており、管理者と職員の意識の高さは、利用者の明るい表情からも推察される。個人情報保護に関する同意書を作成し、家族から個人情報の取り扱いについて同意を得ている。	※	日常的な確認と改善に向けた取り組みを事業所全体として取り組みたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 充分とはいえないが支援出来る様に努力している。		我慢している事、内面的に思っている事を引き出せる様に努力したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る範囲ではあるが個別的関わりをしているが、本当に希望に添った支援が出来ているかは定かでない。 (外部評価) 基本的な日課はあるが、入浴、散歩、買い物等いろいろな場面で利用者一人ひとりの希望に沿った支援をしている。利用者同士が自室でおしゃべりを楽しんだり、共用空間でテレビを見たり、帽子をかぶって散歩に出かける準備をするなど、思い思いの過ごし方をしている。		今後も一人一人の状態や思いに配慮した支援をして行きたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 基本的に本人の意向で決めて頂いている。見守りや支援が必要な時には手伝っている。定期的に地域の理髪店を利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理方法、盛り付け、配膳は利用者に合わせて行っている。気分転換を兼ねて外食なども取り入れている。 (外部評価) 旬の食材を使い、利用者の好みをふまえた献立を立てている。ユニットによっては、朝食に利用者の希望で米飯とパンの両方を用意し、飲み物も選べるようにしている。昼食時に気に入ったおかずをおいしいと喜ぶ利用者の姿があり、副食の種類が多いことが利用者の喜びにもつながっていることがうかがえた。	※	献立に好みの食材を取り入れたり、調理の下ごしらえ等一緒に行って行きたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 身体状況に合わせて、飲み物・おやつを考えて出す様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 失敗した場合でも、極力、本人が傷つかない様配慮した対応をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴できる準備はしているが、本人の意思に任せ、無理な支援はしていない。 (外部評価) 時間帯は午後から夕食までの間と決まっているが、毎日入浴できる。ただし、利用者のその日の希望によって無理強いしないよう配慮している。民家改修型のユニットでは浴槽が深いため、沈みイスを入れて安全に配慮している。浴槽が広く、シャワーも2か所あるユニットでは、仲の良い利用者同士で入浴する楽しみもある。	※	身体状況に合わせて清潔を保てる支援を続けていきたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 体調、表情、希望を考慮して休憩が取れるように支援したい。	※	今後も継続して支援する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々のレベルに合わせた気分転換を出来る様に支援している。 (外部評価) 玄関周りの掃除、食器洗い、下膳、自分のものに記名する等、それぞれに利用者が活躍する場面があり、職員はコミュニケーションをとりながら感謝の言葉をかけている。囲碁や絵画等の趣味が続けられるよう支援したり、利用者が読む本を図書館で借りて備えるなど、楽しめるよう工夫している。行事での外出も楽しんでいる。		マンネリ化しているので、生活暦を生かした支援をして行く。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) レベルに応じて小銭を持っている方もいらっしゃる。しかし、理解したうえで持っているとはいえない。原則的にトラブルの原因になるのでホームが管理している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩は他の利用者で行っているが、他にいきたい希望については寄り添って支援しているとはいえない。 (外部評価) 広い庭やホームの周辺を散歩したり、近くのスーパーに買い物に出かけたり、本人の希望にそって支援している。店員さんと顔馴染みになり、近所の方ともあいさつを交わしている。歩行が困難な利用者も庭に置かれたベンチに座って外気浴を楽しんでいる。ホームで対応できない外出先へは、家族の協力を得られるよう配慮している。	※	状況状況に夜が個々のニーズにあった支援が出来ればと思っている。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別的に支援することは出来ていない。家族への働きかけはしている。	※	職員だけでなく、家族の協力支援を頂きながら戸外活動の充実を図りたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の要求に対しては、家族に確認をとりながら行っている。手紙は受け取っても返事を出さず事はしていない。		季節に応じたもの〔手紙やはがき〕を出来る方には声掛けをして行く。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 居室にて会話が出来る様にしている。		今後も継続して行く。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。 (外部評価) 常に見守りしやすい場所にいるようにし、外出時には同行することで鍵をかけないケアに努めている。スタッフルームから玄関に続く廊下の様子が見えるよう、姿見を置いて利用者の安全に配慮しているユニットもある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) プライバシーに気を配り、目配りを忘れないようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 状態を職員間で話し合い管理している。裁縫などは職員の目の届くところでしてもらっている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々のヒヤリ・ハットを記録し、職員の共有の認識が図れる様になっている。アクシデントが発生した時は自己報告を提出、原因・予防の検討を行い、家族に対しては報告を説明を行っている。	※	全職員で原因の・予防に対する検討を・話し合いの充実を図り職員間の共有認識を高めたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の協力を得て、心肺蘇生・緊急時の搬送方法などの研修を実施。	※	月1回の学習会を実施しているが、研修の報告会的な傾向になっている。今後は、急変時の対応、事故の対応などの便九回を実施して行きたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを作成、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。消防署の協力を頂きながら実施している。 (外部評価) 年2回消防署の協力のもとで利用者と一緒に消防訓練を実施している。4月に実施した訓練では、家族や地域の方にも事前に協力を求めている。自治会長が町内放送で地域の方の参加を促し、大勢の参加が得られた。避難・通報・消火訓練等を行っている。運営推進会議を活用し、地域の方の協力が得られる体制が徐々にできている。		夜間の体制について、充分ではない。今後は地域防災体制との連携強化が必要と感じている。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居時に、家族への説明を実施している。また、運営推進会議などでも説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日の申し送り、バイタルチェック、表情にも気を配り、気付いた時には担当医・看護師に報告支持を受け対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬の効能等についてわかるよう資料を作成している。必要に応じて活用している。	※	時に誤薬する事がある。確認することの徹底が不十分である。確認の徹底を図りたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防のための食材料に気を配っている。可能な限り三〇に出かけたり、適度の運動が出来る様にしたい。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを実施、口腔内の清潔に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養のバランスが図れる様な献立になる様にしている。 (外部評価) 糖尿病の利用者に対する配慮から、母体病院の管理栄養士に献立を点検してもらっている。検査結果や体重の増減に応じて食事量を調整している。多種類の食品を使い、栄養バランスの整った献立を立てている。また、自分で食べる力を発揮できるよう、主食を一口大のおにぎりにしたり、嚥下困難な方には飲み物にとろみをつける等の支援をしている。	※	カロリーが高くなりがちなので気をつける。 食事介助の必要な利用者は少ないが、今後の身体機能の低下等により介助を要する利用者が増加した場合の業務体制を検討することを期待する。合わせて、朝食・夕食と同様に昼食も味見を兼ねて職員が利用者と同じ食事を摂ることへの検討も期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 母体病院の指導もあり、予防接種の実施、ノロウイルス等の予防のための手洗い、うがい、次亜鉛酸を使用しての消毒の徹底を行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日買い物をする事で新鮮な食材を使用する事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 出入りしやすいように工夫をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングについては狭いので、皆で寛げるスペースはない。出来る限りの工夫はしている。 (外部評価) 落ち着いた色調の家庭的な共用空間で、採光が良い。壁面には絵画を飾り、明るい雰囲気になっている。また、台所は対面式で、利用者の様子を見ながら作業ができる。別棟にレクリエーションを3ユニット合同で行うことのできる広い共用空間があり、ボランティアの民謡や読み聞かせはこちらで楽しむことができる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人一人が自由に過ごして頂ける様、声掛等を行なうなどして工夫は出来ている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の考えもあるが、入居時に説明とお願いはしているか使い慣れた物の持込にはなっていない様な気がする。しかし、家族の思いが詰まった物を持ち込んでくれている。 (外部評価) 使い慣れた筆筒やイス、ベッド、テレビ等を持ち込み、家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。それまでの生活に合わせて洋室に畳を入れ、和室部分を作っている方もいる。民家改修型の居室は、広縁や床の間も残してあり味わい深い。趣味を楽しむ方の居室には、碁盤や絵筆等も置かれている。		今後も馴染みの物を持ち込んで頂ける様に説明を継続したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) その都度配慮し、実行できていると思う。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家具の配置、手すり等、こまめに配慮出来ていると思う。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱や失敗を完全に防ぐ事は出来ないが、その都度対処している。		一人一人のレベル低下等、しっかりと把握、その都度対処して行きたい。
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 庭のベンチで、ゆっくり過ごして頂いたり、周囲の散歩等も楽しんでいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	全ての利用者の意向を掴む事は出来ていないが、家族の希望はお聞きしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	理念にも掲げられているので、取り組んでいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出来る限り利用者さんに合わせている。ほぼ支援が必要な利用者さんがいらっしゃる、時間で支援行っている方もいる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日の気分にも依るが、各利用者に合わせて行っている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	散歩や家の周辺については、職員と一緒に出かけているが、行きたいところには散歩のコースを選んで頂くくらいである。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	母体が病院であり、看護師も在中しているので、不安は無いと思う。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出来る限りの要望に応えられるように、支援をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	サービス会議や、面会時にお聞きしているが、信頼関係が全ての家族と出来ているかは分からない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	行事に地域の方々が参加をして下さったりしている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	認知症の理解や、行事への参加、挨拶など、お互いに積極的に出来るようになってきている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の方々が生き活きと暮らせるように、職員も頑張っている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日の満足度は違うと思われるが、おおむね感じられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からの意見としては、満足していると思われる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

リビングの、日当たりが大変良く、夏は暑いくらいですが、冬は、日中、暖房を点けずに過ごせる空間のある棟です。また、庭が広いので、自然にふれたりする事が、身近に出来ます。

利用者の方々の思いや家族の思いを出来る限りお聞きして、プランに導かせたりしていますが、何よりも、事故の無い生活と「ゆったりと・楽しく・いっしょに」の理念に添った、{笑顔のある生活}が出来る様に、頑張っています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム むつみの家

(ユニット名) 2 棟

記入者(管理者)
氏名 矢野 幸男

評価完了日 平成 20 年 4 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念を掲げホーム内にはってある。 (外部評価) 「のんびり、たのしく、いっしょに」という理念は開設当初から変更していないが、地域密着型サービスとしての役割について考え、理念を見直した。利用者が、地域の方々との交流を通してその人らしく地域の中で暮らせるよう支援していくことを理念として再構築している。	※	地域密着型サービスの役割、理念を今後も検討する必要がある。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 職員は理念を念頭におき、入居者のケアに反映できる様に取り組んでいる。 (外部評価) 理念を各ユニットで具体化し、月間目標や行動目標に掲げ、共有できるよう努めている。理念の実践のため、ケアの際には利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿えるよう利用者の言葉を傾聴し、尊厳を守りながら信頼関係を築くことを念頭に置いている。	※	引き続いて理念の実践に向けて取る組んで行きたい
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を開催し家族や住民の方に参加して頂いて説明している。		今後も続けて行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的に散歩に出かけたときなどに近隣の人たちへ積極的に挨拶をし関係作りに努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 引き続き自治会の行事へは積極的に参加を行っており、むつみの家の行事にも地域の人たちの参加をして頂いている。 (外部評価) 自治会に加入しており、利用者とともに地域行事の敬老会、運動会、夏祭り等に積極的に参加し、地域の方と交流している。ホーム行事にも地域の方を招待している。また、地域のボランティアグループが毎月ホームを訪れ、本の読み聞かせや民謡、利用者の話の傾聴などを行っている。クリスマス会では保育園児との交流もある。		今後も積極的に続けて行き、もっと御参加頂けるように取り組んでいきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で認知症についての学習を行ったり防災訓練の地域の方達の参加を呼びかけや市役所の広報の説明会を実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 理解は十分とは言えず、改善の取り組みも話し合う時間が取れていないためできていない。 (外部評価) 評価の意義を理解した上で、丁寧に一つ一つの項目を出勤者で話し合い、ユニットごとに自己評価している。全てのユニットの自己評価を管理者が確認し、運営者、家族、地域の方に報告している。評価をすることで日々の取り組みを振り返り、今後取り組んでいきたいことをユニットごとに検討している。	※	話し合う時間を作り意義を理解した上で、改善に向けて前向きに取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で家族や地域の人々へグループホームの状況や外部評価についての説明を行なっている。 (外部評価) 全ての家族が毎回参加できるようにとの配慮から日曜日に開催しているため、家族の参加が多い。自治会長と民生委員が協力的で、積極的に意見を出してくれるため、地域とのつながりは深まっている。ホームも現況報告や評価結果等を詳しく知らせ、理解を得ている。地域の方と行政の情報交換の場としても有効に運営されている。	※	運営推進会議が今以上に活発な意見交換の場となる様に工夫していきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 主に管理者が行き来をし、機会を作っている。市の職員による後期高齢謝意旅制度の説明会がグループホーム内で行なわれた。 (外部評価) 主に管理者が行政との連携の役目を果たしている。提出書類等を窓口で手渡すよう心がけ、その都度情報交換や相談をしている。運営推進会議に職員も多数参加し、市の取り組みを理解している。また、市図書館職員も毎月読み聞かせでホームを訪れ、図書館で月100冊の本を借りられる体制ができている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在までに制度が必要な方がいない為、理解は不十分である。	※	学習する機会を持ち、理解できる様取り組みたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止は実施しているが、法律についての知識については不十分である。	※	学習する機会を持ち、理解できる様取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に生活面、金銭面、事業所の対応できる範囲について等の家族が不安に思う点は十分に説明し理解納得して頂いている。		今後も十分な説明を行なって行きたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の言葉や態度で察する時もあるが、意志が分かり辛い時もある。その為に意見を反映できないこともある。 外部に話せる機会は不十分である	※	職員との信頼関係を深め、意見や苦情等を言える雰囲気を作る。意見は可能な限り反映していく努力をする。運営推進会議を活用し外部者の相談出来る場を作っていく。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族が面会に来られた時に、日々の状況を報告している。また状況の変化があれば電話連絡も行なっている。他に定期的に新聞を送付し暮らしぶりを伝えている。 <hr/> (外部評価) 家族の面会が多いため、その都度声をかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。健康状態に変化が見られた場合は電話で連絡している。2か月に1回発行のホーム便りに利用者の写真や行事の様子を載せて送っている。金銭管理の報告も適切に行っている。		家族が安心出来るよう名報告を続けて行きたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約時の説明書に苦情等申立先を表記しているが、不満や苦情を表せる機会が少ないように思う <hr/> (外部評価) 面会時に声をかけ、家族が意見を出せるような雰囲気づくりに努めている。運営推進会議やサービス担当者会議、年2回の家族会など家族が意見を出せる機会が多いが、管理者と職員は、家族が遠慮なく意見を述べられるよう、さらに良好な関係づくりに努めたいと考えている。苦情や相談が寄せられた際には、迅速に対応している。	※	面会時やケアプランについての話し合いの時には家族の意見をお伺いしているがそういう場を増やして行く事と話しやすい雰囲気作りを心掛ける。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 部署会、勉強会、運営会で意見や提案は出すことが出来るが反映されているとは言えない。	※	より多くの職員から意見を引き出す工夫と前向きに取り組むことが必要に思う。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 柔軟な対応が出来るような余裕のある人員ではない	※	状況に応じた柔軟な対応をしていきたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 定年退職者や入職者がいて、多少の変化はあるがものの、必要最小限にし、利用者の影響に配慮している。 (外部評価) 利用者との馴染みの関係を大切にすることを深く認識しており、職員の異動はほとんどない。職員が交代する場合も利用者へ説明し、影響に十分配慮している。	※	移動が頻回になると利用者の影響が大きくなるので十分に配慮する必要がある。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が研修に万遍なく参加出来るように配慮してる。 (外部評価) 外部研修への参加は、職員の経験に応じてユニットリーダーが研修計画を立て、参加職員が偏らないよう配慮している。また、法人内の勉強会にも参加している。研修内容を報告し、職員間で共有している。運営者は研修参加費用負担などで参加しやすい体制を作っている。	※	職員から積極的に参加する意欲を引き出していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 十分でないがグループホームの各研修や相互研修で交流を持つ機会を得ている。 (外部評価) 当ホームの管理者が主体となり、市内のグループホーム管理者が集まり、情報交換している。今のところは管理者だけであるが、今後は職員も参加できるよう考えている。また、グループホーム連絡協議会主催の相互研修にも毎年参加している。同業者との交流は、他ホームの実践を参考にするなど、相互のサービスの質の向上のために活かされている。	※	今以上に他の事業所と交流する機会を持ち常に向上していける様にしていきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 積極的な取り組みはない。	※	職員のストレス軽減もケアの向上につながると思うので積極的に取り組んで欲しい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 全員の把握を的確にする事は難しいと思う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談から利用までの期間に本人と接する機会は少なく情報は乏しく家族から情報を得ている。本人とは入居してからの生活の中で信頼関係を築いている。		初期の段階で出来る最大限の事はしているが、認知症の状態によっては本人の思いを聞き出す事が難しい場合もある。家族からの情報を得ながら取り組んでいく。(アセスメントシートの利用)
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 十分とはいえないが家族からの話を聞きその思いを受け止めるよう努力している。		十分理解出来るよう引き続き努力していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の状況を確認した上でグループホームでの生活が難しい場合は他の施設グループホームへの紹介など柔軟な対応を行なっている。	※	本人の状況を的確に判断し施設入居だけでなく自宅で生活出来る事も念頭に置いたサービス利用を検討する。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 棟内の見学や面接時に職員と話す機会はあるものの本人が納得して入居することは殆んど無い。 (外部評価) 本人及び家族がホームを訪れてホームの雰囲気をつかんでいる。病院からの入居がほとんどであるため自宅への訪問は行っていないが、徐々に馴染めるよう家族の協力を得ている。調査日も、帰宅願望のある利用者に対して関わる時間を多くし、一緒に作業したり、会話を楽しんだりしながら安心してもらおうよう配慮していた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 十分には出来ていないが入居者と職員がお互いに話し合い生活を共にしている。 (外部評価) 食器洗いを利用者と一緒にしながら、楽しそうに会話をしている場面では、利用者の生き活きとした返事と職員の笑顔に日ごろの和やかな関係がうかがえた。職員から、食が進まなかった利用者が元気になって食べられるようになった時などに共に喜びを分かち合えるという話があった。		利用者の思いを大切にしながら、色々な機会を利用して関係を作って行きたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 思いは同じだと思うが家族によっては状況は異なっている。	※	家族の思いを聞く機会を増やし、共に支える関係を作っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 外出、外泊、行事の参加を勧め、関係を作り支援しているが、家族によって状況は異なっている。	※	家族の思いを聞く機会を増やし、共に支える関係を作りたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人等が面会に来てくださっているが、本人から出向くことは無い。馴染みの場の把握が不十分で関係が途切れることもある。	※	本人の以前の生活を十分に把握し大切にしてきた人や場所の関係を継続していく支援をする。面会者が訪れ易い雰囲気作りにも気を配っていく。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を把握し、トラブル時の早急な対応を心がけ、和やかに過ごせる様に気を配っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居された後もお会いすれば挨拶を交わしたり、状況をお尋ねする時もある。また家族からの相談があれば受けている。		個人情報に関わる事もあるので、配慮は必要である。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 十分とはいえないが日々の係わりの中で一人一人と向き合い思いの把握に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりとの日々の関わりの中で気付いた利用者の言葉を個別に詳細に記録し、希望や意向を把握している。他の職員は記録を読んで気付きを共有している。なお、確認のためのサイン欄を設け、確実に伝わるよう工夫している。	※	疎通が難しい場合も含めて、今以上に関わりを深めて、本人の思いを把握していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のデータベースを参考にし、家族から聞いたことや本人との会話の中でこれまでの暮らし等を把握しているが、十分ではない。	※	本人との会話の中からこれまでの暮らし方を把握したり、家族にも細かな情報をいただける様に働きかけていく。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一日の過ごし方や、心身の状況を把握し、ケアに活かせる様努めているが、有する力が発揮できていない事もある	※	センター方式などを活用し、本人の全体像を把握し有する力を引き出せる様に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の意見も取り入れて作成している。	※	本人、家族の希望を希望を具体的に聞き出せる工夫をしていく。
			(外部評価) 利用者の立場に立った介護計画を作成するため、センター方式のアセスメントを行い、情報収集に努めている。また、個別の記録に利用者の言葉を主体とする自覚的所見と職員による他覚的所見を記入し、それらを判断材料にして介護計画を立てている。なおかつ本人や家族にカンファレンスに参加してもらい、希望を取り入れている。	※	介護計画について職員全員が意見や気付きを出し合い、共通理解のもと実施していけるよう、勤務時間外の職員への配慮を考慮し、チームミーティングを開催するなど工夫をすることを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 1ヶ月毎の評価はしているが、状況に応じた計画の作成は不十分である。	※	変化があった時には速やかに話し合い計画を立て直す。
			(外部評価) 介護計画のサービス内容についての実施状況を毎日支援経過表に記録し、それを基に月に1回評価している。3か月間のモニタリングをサービス担当者会議にて検討し、新たな計画を作成している。その際にも本人や家族の参加を得て、希望を聞き、本人本位の見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別カルテ、週間介護計画表を記入し情報の共有を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) (外部評価) 家族の状況に応じて、通院介助や受診の送迎を柔軟に支援している。また、医療連携体制を活かし、認知症専門医の往診やホーム内の看護師の健康管理により、本人や家族の安心につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 協力しながら支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要に応じて行なっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議に市の関係職員が参加し、情報交換を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望する医療機関での受診を行なっている。家族が受診に付き添えない場合は職員が代行している。 (外部評価) 馴染みの関係の大切さを十分理解し、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。母体病院の認知症専門医が2週間に1回往診しており、利用者の状態を把握したうえで適切な対応をしている。基本的には、利用者の状態把握のため家族に通院介助をお願いしているが、緊急な場合や家族の要望に応じて通院介助もしている。	※	今後も家族と協力し入居者の状態にあった支援をしていきたい。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 母体病院、担当医が専門であり、いつでも相談受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置し、入居者の状態の変化に応じた支援を行なっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入居者の身体状況に応じて家族と相談し、入退院の支援を行っている。入院時は病院個々への情報提供を行い、本人ケアにつないでいる。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に説明を行ない状況に応じて家族へ説明しているが、認識の差がある。 (外部評価) 入居の際に、重度化した場合や終末期のあり方について家族に説明している。ホーム内に手すりを設置したり、段差をスロープにする等改善し、重度化した場合にも対応できるよう取り組んでいるが、ターミナルの取り組みは考えていない。今のところホームの対象者は経口による食事が可能な方であり、状態変化の度に家族と話し合い方針を決めている。	※	状況の変化に応じて繰り返し話し合うことが必要だと思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 医師、管理者、職員との話し合い、家族の希望を取り入れながら本人にとって最善の方法を検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 情報提供を行っているが、関係者間の話し合いは十分ではない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 気を付けているが、誘導の声掛け時等の際に配慮が欠けている所があると思う。 (外部評価) 利用者の誇りやプライバシーの確保への配慮は十分されており、管理者と職員の意識の高さは、利用者の明るい表情からも推察される。個人情報保護に関する同意書を作成し、家族から個人情報の取り扱いについて同意を得ている。	※	ほこりやプライバシーについて、常に意識しながら対応していく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 傾聴しながら、会話の中で本人の希望を聞きだしたり、本人が選ぶことが出来る場面を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限りは利用者の方のペースに合わせた取り組みを行っているが、希望に沿えない場合もある。 (外部評価) 基本的な日課はあるが、入浴、散歩、買い物等いろいろな場面で利用者一人ひとりの希望に沿った支援をしている。利用者同士が自室でおしゃべりを楽しんだり、共用空間でテレビを見たり、帽子をかぶって散歩に出かける準備をするなど、思い思いの過ごし方をしている。	※	その人の暮らし方についても一度考えて支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理美容店に関しては、馴染みの店を利用しているが、服装については、本人の状態によっては着脱のしやすさを優先している。	※	外出時には本人の好む服装で出掛けてもらったり、化粧をする等の支援をしていく。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの把握は出来ているが、食事の準備や片づけ等はする人に片寄りがあり、継続は出来ていない。 (外部評価) 旬の食材を使い、利用者の好みをふまえた献立を立てている。ユニットによっては、朝食に利用者の希望で米飯とパンの両方を用意し、飲み物も選べるようにしている。昼食時に気に入ったおかずをおいしいと喜ぶ利用者の姿があり、副食の種類が多いことが利用者の喜びにもつながっていることがうかがえた。	※	一人一人有する力を見極め、出来る力が発揮出来る場面を提供する。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 好みの把握は出来ているが、身体面や周囲の配慮を考えると、十分な支援は出来ないこともある。	※	身体面、周囲への配慮を忘れることなく、個々の意向汲んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 過剰な支援、排泄の誘導時や失敗した時の配慮に不十分な時がある。	※	本人の力量を見極め支援する事と、自尊心を傷つけない様配慮する点を見直す。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴は毎日出来るが、時間帯は決まっていて、本人の希望に沿えない場合もある。 (外部評価) 時間帯は午後から夕食までの間と決まっているが、毎日入浴できる。ただし、利用者のその日の希望によって無理強いしないよう配慮している。民家改修型のユニットでは浴槽が深いため、沈みイスを入れて安全に配慮している。浴槽が広く、シャワーも2か所あるユニットでは、仲の良い利用者同士で入浴する楽しみもある。	※	身体面を考慮しながら、個々の希望やタイミングに合った入浴支援を検討していく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の状態に合わせて、その日に必要な活動と休息が取れる様に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 引き続き本人の状態に合わせて、必要な活動や休息が取れる様に支援している。 (外部評価) 玄関周りの掃除、食器洗い、下膳、自分のものに記名する等、それぞれに利用者が活躍する場面があり、職員はコミュニケーションをとりながら感謝の言葉をかけている。囲碁や絵画等の趣味が続けられるよう支援したり、利用者が読む本を図書館で借りて備えるなど、楽しめるよう工夫している。行事での外出も楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 理解はしているが、盗られ妄想が多い為所持していない。	※	個々の物品を買うときは、同行している。支払いについては本来は本人に支払いをしてもらいたいが難しいと思われる。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 本人の希望に応じて散歩、買い物、ドライブ等の外出支援をしている。 (外部評価) 広い庭やホームの周辺を散歩したり、近くのスーパーに買い物に出かけたり、本人の希望にそって支援している。店員さんと顔馴染みになり、近所の方ともあいさつを交わしている。歩行が困難な利用者も庭に置かれたベンチに座って外気浴を楽しんでいる。ホームで対応できない外出先へは、家族の協力を得られるよう配慮している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 行事の中での外出の機会は設けているが、「行ってみたい」という希望の場所でないことが多い。	※	希望を聴き機会を設けたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望がある時には、電話をかけてもらっている。	※	年賀状は出せているが、手紙の返事は出せていないので、本人に書いて頂く支援をする。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時間は特に設けておらず、いつでも気軽に来て頂ける様に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 十分な理解は出来ていない。		十分に理解し取り組んでいく。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関に鈴を付け外出が分かる様にし、止める事はせず見守りや一緒に行くことで自由に入出りできる様配慮している。 (外部評価) 常に見守りしやすい場所にいるようにし、外出時には同行することで鍵をかけないケアに努めている。スタッフルームから玄関に続く廊下の様子が見えるよう、姿見を置いて利用者の安全に配慮しているユニットもある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は入居者を見守りやすい場所で作業し、常に入居者の所在の把握に努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人一人の状況に応じて、対応し、管理方法を検討している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告やインシデントの記録はしているが、事故防止に繋がっていない。	※	事故報告やインシデントの記録を共有し、全職員が認識することで、事故防止に繋がりたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的ではないが実施している。業務の都合上一部の職員しか参加できない。	※	救急救命法の学習や訓練を定期的に行ってほしい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回避難訓練を実施している。 (外部評価) 年2回消防署の協力のもとで利用者と一緒に消防訓練を実施している。4月に実施した訓練では、家族や地域の方にも事前に協力を求めている。自治会長が町内放送で地域の方の参加を促し、大勢の参加が得られた。避難・通報・消火訓練等を行っている。運営推進会議を活用し、地域の方の協力が得られる体制が徐々にできている。	※	運営推進会議を通じて、働きかける。地域の人を交えて訓練を実施する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入居者の状況により起こり得るリスクと普通の生活の大切さを家族に説明し、家族と相談の上本人の生活の支障のない対策をとっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 各自の様子等の変化に注意し状況に応じてバイタルチェックを行っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬時には本人へ手渡し、服用できたか確認し、チェック表を使っている。新しい薬を服用する際は症状の変化を入念にチェックしている。	※	薬に関する知識を深めると共に誤薬の無い様十分注意していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事に根菜類を取り入れ便秘予防に努めたり、日中散歩等の活動を支援しているが、必要に応じて服薬も行っている。		努力している。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 全員が毎食後ではないが、各自の習慣や意向を踏まえ、個別に支援し就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量の記録をし、職員間で共有している。水分量が必要な場合はチェックしている。	※	こまめに水分摂る様に声を掛けたり都度水分を提供していく。
			(外部評価) 糖尿病の利用者に対する配慮から、母体病院の管理栄養士に献立を点検してもらっている。検査結果や体重の増減に応じて食事量を調整している。多種類の食品を使い、栄養バランスの整った献立を立てている。また、自分で食べる力を発揮できるよう、主食を一口大のおにぎりにしたり、嚥下困難な方には飲み物にとろみをつける等の支援をしている。	※	食事介助の必要な利用者は少ないが、今後の身体機能の低下等により介助を要する利用者が増加した場合の業務体制を検討することを期待する。合わせて、朝食・夕食と同様に昼食も味見を兼ねて職員が利用者と同じ食事を摂ることへの検討も期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 取り決めがあり早期対応を行っている。また消毒の日を決め実施し、予防に努めている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や布巾は毎日消毒している。食材は期限や状態を確認し、安全な物を使用している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花を植えたりベンチに置いて親しみ易い環境にしている。	※	利用者にとっては、玄関周りの段差が危険である。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 生活感、季節感を損なわない様につけている。 (外部評価) 落ち着いた色調の家庭的な共用空間で、採光が良い。壁面には絵画を飾り、明るい雰囲気になっている。また、台所は対面式で、利用者の様子を見ながら作業ができる。別棟にレクリエーションを3ユニット合同で行うことのできる広い共用空間があり、ボランティアの民謡や読み聞かせはこちらで楽しむことができる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者は共有スペースを思い思いに活用している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居前に家族へ説明し本人の使い慣れた物を使用している。 (外部評価) 使い慣れた筆筒やイス、ベッド、テレビ等を持ち込み、家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。それまでの生活に合わせて洋室に畳を入れ、和室部分を作っている方もいる。民家改修型の居室は、広縁や床の間も残してあり味わい深い。趣味を楽しむ方の居室には、碁盤や絵筆等も置かれている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 気を配っているが、トイレの換気、部屋と廊下の気温差に困っている。		換気扇の修理 廊下に電熱を付ける。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下や部屋に手すりを設置しているが、構造上の問題点が多い。	※	個々の状況に応じた工夫が必要
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 状況に応じて環境を整えている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベンチに座り外気浴をしたり、花を見て楽しめる様になっている。	※	利用者が楽しみながら活動できる環境を作る

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	本人の思いや願いを積極的に聞き出す機会が少なく本当の思いを掴んでいる とは言いがたい。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつはスタッフも同席し、世間話を楽しんでいる。また共同作業を ゆっくりと行えるように努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ある程度は1日の流れが決まっている事や個々の作業によっては職員側が ペースを決めている為、本人のペースとは言えない。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	常に表情の変化を観察し関わっている。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	敷地内は自由に出ているものの、敷地外は安全面から職員が同行している。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	多少の不安はあるとおもうが、主治医やスタッフに相談している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況に応じた支援を出来る限り行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時家族から話を伺う様心掛けていますが意志は掴みきれない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) 2 数日に1回程度 ③ たまに 4 ほとんどない	定期的にボランティアが来てくれている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議では意見交換も出来ており、徐々に深まっていると思う
98	職員は、活き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	楽しく仕事している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	時々感謝の言葉を言って下さる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	全ての家族が「助かっている」「ありがたい」と言って下さる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

職員は入居者が言いたいことを遠慮なく言える様に、常に受容する心と耳を持ち、そこから入居者の思いを引き出す努力をしているので、会話は多く、感情豊かに生活できていると思います。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームむつみの家

(ユニット名)

3 棟

記入者(管理者)

氏名

矢野 幸男

評価完了日

平成 20 年 4 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) のんびり・たのしく・いっしょにをモットーにその人にとって楽しい空間になる様支援できるよう心掛けています。事業所のある地域周辺との交流は多く持てる様になっているが、その人の住み慣れた地域との関係性の継続については不十分である。 (外部評価) 「のんびり、たのしく、いっしょに」という理念は開設当初から変更していないが、地域密着型サービスとしての役割について考え、理念を見直した。利用者が、地域の方々との交流を通してその人らしく地域の中で暮らせるよう支援していくことを理念として再構築している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念をスタッフ全体に伝え、理解してもらえる様に勉強会などでも話し合いを持つ様にしている。利用者(入居者)中心のケアを行っている。 (外部評価) 理念を各ユニットで具体化し、月間目標や行動目標に掲げ、共有できるよう努めている。理念の実践のため、ケアの際には利用者一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿えるよう利用者の言葉を傾聴し、尊厳を守りながら信頼関係を築くことを念頭に置いている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族には面会時、家族会などを利用し繰り返し伝えるようにしている。定期的に行っている運営推進会議を通して家族・地域の人達に説明している。地域の活動に対しても積極的に参加、理解を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩・買い物時など近隣の人達と気軽な付き合いが出来る。時にはご近所の方から野菜や切り花を頂いたり、ホームの行事にお誘いしたり、お餅つきの時には、ご近所にお配りしたり日常的にお付き合いが出来る様に心掛けている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会に加入、地域行事(総会、敬老会、運動会・お祭り、ごみの分別など)に参加したりホームの行事にも参加して頂いている。また、ボランティアの方も積極的に受け入れお手伝いして頂いている。(民謡、読み聞かせ、傾聴など) (外部評価) 自治会に加入しており、利用者とともに地域行事の敬老会、運動会、夏祭り等に積極的に参加し、地域の方と交流している。ホーム行事にも地域の方を招待している。また、地域のボランティアグループが毎月ホームを訪れ、本の読み聞かせや民謡、利用者の話の傾聴などを行っている。クリスマス会では保育園児との交流もある。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催、地域の方を含めた行事・学習会を企画案内をしている。	※	今後も、地域の方の協力支援が頂ける様、お付き合いを深めて行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の意義と活用について、スタッフ全員で話し合い、自己評価に取り組んでいる。 (外部評価) 評価の意義を理解した上で、丁寧に一つ一つの項目を出勤者で話し合い、ユニットごとに自己評価している。全てのユニットの自己評価を管理者が確認し、運営者、家族、地域の方に報告している。評価をすることで日々の取り組みを振り返り、今後取り組んでいきたいことをユニットごとに検討している。	※	スタッフ一人一人が自分の事として捉えことが出来る様、話し合う機会を繰り返し作り実践出来る様にした。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) スタッフが交替で参加する様にしているが会議の内容報告、その後の話し合いが不十分である。 (外部評価) 全ての家族が毎回参加できるようにとの配慮から日曜日に開催しているため、家族の参加が多い。自治会長と民生委員が協力的で、積極的に意見を出してくれるため、地域とのつながりは深まっている。ホームも現況報告や評価結果等を詳しく知らせ、理解を得ている。地域の方と行政の情報交換の場としても有効に運営されている。	※	会議後は内容を整理・報告し、スタッフ全員が理解出来る様にして行く。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者の事業所および地域の方の考え方、取り組みを報告。課題解決に対する取り組みを行っている。 (外部評価) 主に管理者が行政との連携の役目を果たしている。提出書類等を窓口で手渡すよう心がけ、その都度情報交換や相談をしている。運営推進会議に職員も多数参加し、市の取り組みを理解している。また、市図書館職員も毎月読み聞かせでホームを訪れ、図書館で月100冊の本を借りられる体制ができている。	※	管理者だけの交流に留まらず、他のスタッフ、利用者も交流の機会を増やし互いの理解を深めたい。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ対象になる人がいない為、実施はされていない。	※	愛媛県グループホーム連絡協議会の主催する研修会に参加、成年後見制度について学習機会を持っている。今後も機会を作り理解を深めて行きたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止に対しては徹底してるが、法律および虐待の定義などについては不十分である。	※	虐待の定義、法律的な面、学習する機会を持ち理解出来る様に取り組みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前、契約時に事業所としての考え方、生活面、金銭面など丁寧に説明している。家族が不安に思う点は十分な説明を行い理解、納得してから入居して頂いている。利用者の状態変化により契約解除になる時にもかぞくとの話し合いを密にしその後の事についても相談に乗っている。	※	今後も状況に応じて、十分な話し合いが出来る様、取り組んで行きたい。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の言葉や態度で、その人の気持ちを察することが出来る様に努め利用者中心の生活支援を心掛けている。利用者の意見に耳を傾け、その都度対応している。	※	日々の関わりの中で利用者中心の関わり・支援が出来る様にしたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族の面会時に日々の状況状を報告している。訪問の少ない家族などは電話連絡により状況の変化を報告している。その他として、定期的にむつみ新聞を送付し暮らし振りを報告している。 (外部評価) 家族の面会が多いため、その都度声をかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。健康状態に変化が見られた場合は電話で連絡している。2か月に1回発行のホーム便りに利用者の写真や行事での様子を載せて送っている。金銭管理の報告も適切に行っている。	※	家族が安心出来る様報告を続けて行きたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族に何でも言ってもらえる雰囲気作りに心掛けている。家族からは中々不満苦情はいえないと思うのでスタッフ側から意見が言えるよう声掛をする様に努めている。 (外部評価) 面会時に声をかけ、家族が意見を出せるような雰囲気づくりに努めている。運営推進会議やサービス担当者会議、年2回の家族会など家族が意見を出せる機会が多いが、管理者と職員は、家族が遠慮なく意見を述べられるよう、さらに良好な関係づくりに努めたいと考えている。苦情や相談が寄せられた際には、迅速に対応している。	※	家族が意見を出しやすい雰囲気作りに努めたい。家族と十分なコミュニケーションが図れる様に努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 不満や苦情は言い難いため十分な把握は出来ないと思う。	※	より多くの職員からの意見を引き出せる様、個別面接、ミーティングを行う等の工夫が必要である。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 管理者は柔軟な対応が出来る様、通常のシフトから外れ夜間の対応や利用者・スタッフの状況に応じた対応が出来る体制を取っている。	※	今後も、柔軟な対応が出来る様、一定スタッフの確保に努めたい。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者や家族との馴染みの関係を作ることは出来ている。職員の異動時等は利用者に説明し戸惑いを最小限にする様 努力している。 (外部評価) 利用者との馴染みの関係を大切にすることを深く認識しており、職員の異動はほとんどない。職員が交代する場合も利用者に説明し、影響に十分配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所外の研修会に順番に参加、毎月定期的に行われる事業所内の勉強会で報告、知識の共有を図っている。 (外部評価) 外部研修への参加は、職員の経験に応じてユニットリーダーが研修計画を立て、参加職員が偏らないよう配慮している。また、法人内の勉強会にも参加している。研修内容を報告し、職員間で共有している。運営者は研修参加費用負担などで参加しやすい体制を作っている。	※	研修会、学習会で学んだ事を積極的に取り入れ、現場に反映して行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会主催の研修会、相互研修などに積極的に参加し交流の機会を得ている。 (外部評価) 当ホームの管理者が主体となり、市内のグループホーム管理者が集まり、情報交換している。今のところは管理者だけであるが、今後は職員も参加できるよう考えている。また、グループホーム連絡協議会主催の相互研修にも毎年参加している。同業者との交流は、他ホームの実践を参考にするなど、相互のサービスの質の向上のために活かされている。	※	現状に満足する事無く、積極的に研修へ参加し交流を深めると共に、様々なネットワークを活用し個々の資質の向上に努めたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者は管理者や職員個々のストレスについて、あまり理解出来ていないと思う。また、気分転換できる休憩場所もなく、ストレスの発散が出来る環境ではない。	※	休憩時間と場所の確保、個々に話し合う機会を持ち、何でも話し合える関係作りをしていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 全員の把握を的確には出来ていないと思われる。	※	運営者は、職員個々と話し合う機会をもち、現場の状況を把握する必要がある。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 本人の思いや不安を受け止め、安心して生活して頂ける様に努力はしているが情報に乏しい面が多い。	※	プライバシーの配慮は必要だが、ご家族との信頼関係を築き、本人の情報収集に努め利用者の生活支援に努めたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談するご家族の立場に立ち、話を傾聴、受容し対応している。		引き続き努力して行く。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族の実情、要望を基に、その時点で何が必要か見極め出来る限りの対応に努める。		引き続き努力して行く。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人が納得して入居していることは少ない為、まず入居前にはご家族、本人にホーム内を見学して頂き安心感を持って頂ける様な安心出来る雰囲気作りに努めたい。 (外部評価) 本人及び家族がホームを訪れてホームの雰囲気をつかんでいる。病院からの入居がほとんどであるため自宅への訪問は行っていないが、徐々に馴染めるよう家族の協力を得ている。調査日も、帰宅願望のある利用者に対して関わる時間を多くし、一緒に作業したり、会話を楽しんだりしながら安心してもらうよう配慮していた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者とスタッフがお互いに協力し合い生活を共にしているが時にスタッフノ意見を通してしまうことがある。 (外部評価) 食器洗いを利用者と一緒にしながら、楽しそうに会話をしている場面では、利用者の生き活きとした返事と職員の笑顔に日ごろの和やかな関係がうかがえた。職員から、食が進まなかった利用者が元気になって食べられるようになった時などに共に喜びを分かち合えるという話があった。	※	利用者個々のスタイルに応じた対応が出来る様、心掛ける。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者個々の家族によって状況が異なっている。家族との関わりが十分に図れているところとホームに任せきりのところがはっきりしている。ホーム側から積極的に利用者さんの状態を報告するようにしている。	※	今後も、いろいろな形をとりながら家族との関わり、関係構築を図って行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族、本人の思いや状況に応じて外出・外泊かどを勧めたり行事への参加案内をするなど家族と一緒に過ごす機会を多く持つようにし、より良い関係の維持に努めている。	※	疎遠になりがちな家族には、本人の状況をこまめに報告、積極的にアプローチをして行きたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一人一人の生活習慣を尊重しているが現状では家族だけの関わりになっている。馴染みの人が来ることは少ない。	※	継続的な交流が出来る様働きかけて行く。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係がうまく行くようスタッフが間に入り調整役になっている。個々に話を聞いている。	※	今後も利用者同士の関係がうまく行く様、スタッフが間に入り調整して行く。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 関連施設にいった場合は把握することが出来るがそれ以外は出来ない。	※	関係が必要な場合は、関係の継続が図れるようにしたい。しかし、他の施設等に入所すると現実的には難しい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 言葉や表情から察したり、それとなく確認、声掛けし把握に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりとの日々の関わりの中で気付いた利用者の言葉を個別に詳細に記録し、希望や意向を把握している。他の職員は記録を読んで気付きを共有している。なお、確認のためのサイン欄を設け、確実に伝わるよう工夫している。	※	今後も本人の視点に立ち、家族を交え、本人のニーズに添った支援が出来る様に検討して行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個々の情報収集が、まだまだ不十分である。	※	現在は不十分であるため、プライバシーに配慮しながら家族とのコミュニケーションの充実を図り把握に努めたい。ツールとしてはセンター方式、また、他の事業所ノツールも参考にさせて頂き当事業所としての物を作りたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人一人の生活リズムを理解し、少しの変化にも気付ける様、観察している。		今後も継続して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・ご家族・スタッフとでカンファレンスを行い、本人・ご家族の希望を聴いたり、日々の関わりの中から感じ取ったことを話し合いプランを作成している。	※	本人やご家族の意見を積極的に取り入れ、本人主体の生活支援計画が作成出来る様に取り組みたい。
			(外部評価) 利用者の立場に立った介護計画を作成するため、センター方式のアセスメントを行い、情報収集に努めている。また、個別の記録に利用者の言葉を主体とする自覚的所見と職員による他覚的所見を記入し、それらを判断材料にして介護計画を立てている。なおかつ本人や家族にカンファレンスに参加してもらい、希望を取り入れている。	※	介護計画について職員全員が意見や気付きを出し合い、共通理解のもと実施していけるよう、勤務時間外の職員への配慮を考慮し、チームミーティングを開催するなどの工夫をすることを期待する。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 利用者の変化に応じてミーティングを行っている。モニタリングや毎日の支援経過表の記録を行っている。	※	変化に応じ、より良い対応が出来る様に実施しているが、効果的に実践出来る様、書式等の見直し・検討をしている。
			(外部評価) 介護計画のサービス内容についての実施状況を毎日支援経過表に記録し、それを基に月に1回評価している。3か月間のモニタリングをサービス担当者会議にて検討し、新たな計画を作成している。その際にも本人や家族の参加を得て、希望を聞き、本人本位の見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、具体的ケアプラン、介護記録、習慣予定表への記入をこまめに行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 受診時の送迎などを行っている。 (外部評価) 家族の状況に応じて、通院介助や受診の送迎を柔軟に支援している。また、医療連携体制を活かし、認知症専門医の往診やホーム内の看護師の健康管理により、本人や家族の安心につなげている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 利用者が安心して楽しく生活出来る様に地域資源を活用している。(保育園、自治会、消防、病院関係、ボランティアなど)	※	今後も積極的に活用して行きたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の状況の変化、家族の希望等によっては他の事業所のケアマネジャーとの連携を図っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議にも参加して下さり、情報交換が出来ている。いつでも連絡が取れる体制である。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族が希望する、かかりつけ医を利用している。利用者の状態を把握して頂く意味で、受診時には家族同伴で行っている。しかし、個々の状況を理解し、家族との連携を図りながら臨機応変な対応で支援している。 (外部評価) 馴染みの関係の大切さを十分理解し、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。母体病院の認知症専門医が2週間に1回往診しており、利用者の状態を把握したうえで適切な対応をしている。基本的には、利用者の状態把握のため家族に通院介助をお願いしているが、緊急な場合や家族の要望に応じて通院介助もしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門の主治医がおり、2週間に1度は診察している。一人一人の状況に合わせて親身に診察している。また、診察日以外でも状況の変化に応じて電話にて報告、指示を頂いている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師を配置、常に利用者の健康管理し状態変化に応じた支援を行える様にしている。夜間でも対応出来る様、看護師、主治医、母体病院、協力病院と状況に応じた支援を行っている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院入院時には、本人が安心出来る様、家族・入院病院との連携、情報の共有が図れる様にしている。また、スタッフも顔を見せることにより安心感を抱いて頂いている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度者や終末期の人を対象にしている。しかし、利用者の状態の変化に合わせて母体病院、協力病院と連携を図りながら対応させて頂いている。家族への十分な説明を忘れない様にしている。 (外部評価) 入居の際に、重度化した場合や終末期のあり方について家族に説明している。ホーム内に手すりを設置したり、段差をスロープにする等改善し、重度化した場合にも対応できるよう取り組んでいるが、ターミナルの取り組みは考えていない。今のところホームの対象者は経口による食事が可能な方であり、状態変化の度に家族と話し合い方針を決めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合いを持ち、状態の変化があれば、その都度報告、急変時にはすぐに対応して頂ける様、医療機関との連携を図っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 病院への入院、他施設への転居時には根サマリー、アセスメント表、ケアプラン表など支援の状況が解る様な資料をお渡しし情報の提供をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 本人の意思を尊重しつつ、利用者一人一人に対して言葉賭けを行い、日常生活能力が低下しない様、支援している。スタッフの感情が入らない様に努力している。 (外部評価) 利用者の誇りやプライバシーの確保への配慮は十分されており、管理者と職員の意識の高さは、利用者の明るい表情からも推察される。個人情報保護に関する同意書を作成し、家族から個人情報の取り扱いについて同意を得ている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 意思表示が困難な方には、表情を読みとったりゼスチャーで表現したり、その方に合わせた対応、関わりをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事時間、入浴時間などスタッフ側のペースで援助しているが、本人の体調、気分、希望を受け入れながら調整している。一人一人の自由になる時間は持っている。 (外部評価) 基本的な日課はあるが、入浴、散歩、買い物等いろいろな場面で利用者一人ひとりの希望に沿った支援をしている。利用者同士が自室でおしゃべりを楽しんだり、共用空間でテレビを見たり、帽子をかぶって散歩に出かける準備をするなど、思い思いの過ごし方をしている。	※	スタッフ側が時間設定して支援しているが、それが利用者の生活習慣になっていると思われる。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 爪切り、散髪など定期的に行っている。行き付けの・馴染みの店がある方は、その店を利用している。化粧品なども使用したい人は使っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立は利用者に希望等を聴きながらスタッフが決めている。季節に合わせた献立を考えている。手伝いのできる方については、負担にならない様手伝って頂いている。食事はスタッフも一緒に頂いている。 (外部評価) 旬の食材を使い、利用者の好みをふまえた献立を立てている。ユニットによっては、朝食に利用者の希望で米飯とパンの両方を用意し、飲み物も選べるようにしている。昼食時に気に入ったおかずをおいしいと喜ぶ利用者の姿があり、副食の種類が多いことが利用者の喜びにもつながっていることがうかがえた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 煙草を希望する利用者はいない。本人の健康状態を考慮し、嗜好品を楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 出来る限りオムツは使用していない。時に失敗するぐらいなら洗濯すれば良いという考え方で対応している。しかし、夜間の睡眠の妨げになったり、健康的に影響を及ぼすような状況になればオムツを併用しながらトイレ誘導に注意を払いながら支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 基本的に毎日、入浴が出来る様に準備している。個々の体調、希望を聴きながら強制にならない様にしている。 (外部評価) 時間帯は午後から夕食までの間と決まっているが、毎日入浴できる。ただし、利用者のその日の希望によって無理強いしないよう配慮している。民家改修型のユニットでは浴槽が深いため、沈みイスを入れて安全に配慮している。浴槽が広く、シャワーも2か所あるユニットでは、仲の良い利用者同士で入浴する楽しみもある。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の体調や表情、希望に応じて休憩を取って頂いている。共有スペースと自分の部屋を自由に活用出来る様にしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々のレベルに合わせて出来そうな仕事をお願いしている。自分の役割として楽しんで手伝って下さっている方もいる。スタッフは感謝の気持ちを相手に伝えるようにしている。 (外部評価) 玄関周りの掃除、食器洗い、下膳、自分のものに記名する等、それぞれに利用者が活躍する場面があり、職員はコミュニケーションをとりながら感謝の言葉をかけている。囲碁や絵画等の趣味が続けられるよう支援したり、利用者が読む本を図書館で借りて備えるなど、楽しめるよう工夫している。行事での外出も楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には、お金の管理は事務所がしている。	※	外出の時など、個人個人にお金を所持して頂き支払いが出来る様にして行きたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 本人の希望があるとき以外にも、天候等を見ながら出来る限り支援が出来る様にしてている。 (外部評価) 広い庭やホームの周辺を散歩したり、近くのスーパーに買い物に出かけたり、本人の希望にそって支援している。店員さんと顔馴染みになり、近所の方ともあいさつを交わしている。歩行が困難な利用者も庭に置かれたベンチに座って外気浴を楽しんでいる。ホームで対応できない外出先へは、家族の協力を得られるよう配慮している。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の協力を頂きながら行っている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があれば自由に電話を使用して頂いている。手紙なども書いている方がいる。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会時、自室やリビングで気兼ねなく過ごして頂き、家族とスタッフも気軽な会話が出来様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ一人一人が理解できており、利用者が自由に活動出来る様に支援している。		身体拘束の学習会などに参加、伝達を行いスタッフ間の共有ができるようにしている。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ一人一人が理解できており、日中は鍵をかけず、利用者が自由に活動出来る様に支援している。 (外部評価) 常に見守りしやすい場所にいるようにし、外出時には同行することで鍵をかけないケアに努めている。スタッフルームから玄関に続く廊下の様子が見えるよう、姿見を置いて利用者の安全に配慮しているユニットもある。		スタッフの見守りの方法を徹底し、利用者が外に出る様な様子が見られた場合は、止めるのではなくさりげない声掛け、一緒について行くなどし安全に対する配慮をする。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) スタッフは作業中も常に視野に入れ、利用者を見守っている。夜間も1時間毎に巡回、様子を観察、状況を確認し安全に配慮している。		利用者は自由な時間を持っており、利用者の動きやサインを察知し、それとなく見守る様にする。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況によって異なる。個々の状況を見ながら出来る限り自己管理して頂いている。		自己管理に対する支援を継続、スタッフが個々の状況を把握する。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 誤嚥のリスクの高い人はトロミ剤を使用したり、食事を刻み食にしたりしている。また、歩行難のある方は歩行器を利用したり見守り支援を徹底している。服薬の支援については誤薬のないよう繰り返し確認する様になっている。火災に対しては、年に2度、防火訓練を実施している。		服薬管理については一人のスタッフの目で確認複数のスタッフが確認しながら支援することを徹底する。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時の対処方法、心肺蘇生法など防火訓練時に講演して頂いたり、母体病院の研修に参加したりしているが、定期的な学習にはなっていない。緊急時の連絡マニュアルは作っている。		一人一人が学習、すべてのスタッフが修得出来る様になりたい。定期的な学習を行う。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 少しずつではあるが地域の方々との連携が図れるようになってきている。地域の避難場所、連絡体制などの構築を図りたい。 (外部評価) 年2回消防署の協力のもとで利用者と一緒に消防訓練を実施している。4月に実施した訓練では、家族や地域の方にも事前に協力を求めている。自治会長が町内放送で地域の方の参加を促し、大勢の参加が得られた。避難・通報・消火訓練等を行っている。運営推進会議を活用し、地域の方の協力が得られる体制が徐々にできている。		いろいろな機会を捉えて、地域との交流を図って行きたい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者一人一人に起こりうるリスクを把握できている。また、家族とも対応策について話し合いも出来ている。		出来る限り本人が自由に活動できるよう支援しているが、今以上に個々のリスク把握に努め自由な生活支援が出来る様になりたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 体調変化の状況・改善の状況を把握し、些細な状態変化・表情の変化も見逃すことのない様に心掛けている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の処方箋をファイルにしスタッフが目を通せる様にしている。新しい薬が処方された時には説明書きに目を通し、副作用の内容などを理解する様にし、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘を促すため、毎朝の水分補給には乳製品を使用。水分・食物繊維を多く摂って頂ける様にしている。便秘状態になると適時、緩下剤を使用し対応している。排泄の状況を観察している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的に義歯洗浄を行い、毎日、口腔ケアを行なっている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分摂取状況を毎日チェック表に記録。スタッフの情報の共有を図っている。 (外部評価) 糖尿病の利用者に対する配慮から、母体病院の管理栄養士に献立を点検してもらっている。検査結果や体重の増減に応じて食事量を調整している。多種類の食品を使い、栄養バランスの整った献立を立てている。また、自分で食べる力を発揮できるよう、主食を一口大のおにぎりにしたり、嚥下困難な方には飲み物にとろみをつける等の支援をしている。	※	食事面でカロリーが高くなりすぎている傾向になっている。献立の工夫が必要である。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対して、母体病院のDr、看護師の行なう研修に全員が参加マニュアルが作成されており、全スタッフが学習、意識し予防対策に努めている。	※	毎日、次亜鉛素酸を使用し消毒している。また、手洗いの徹底、予防接種などを行い。状態の変化によっては早期受診、医療機関との連携を図っている。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 食材は、毎日、新鮮なものを購入している。生物、二枚貝などは使用しない様にしている。冷蔵庫の中は常に点検、古い物が残らない様にしている。	※	調理器具の消毒の徹底が出来ていない。まな板などは毎日消毒する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関入り口に、花などを飾ったり、庭先にベンチを配置、明るい雰囲気になる様にしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 皆の目に付くところ（玄関先）に季節感を感じさせるような飾り付けを行っている。（花を飾ったり、貼り絵を張ったり） (外部評価) 落ち着いた色調の家庭的な共用空間で、採光が良い。壁面には絵画を飾り、明るい雰囲気になっている。また、台所は対面式で、利用者の様子を見ながら作業ができる。別棟にレクリエーションを3ユニット合同で行うことのできる広い共用空間があり、ボランティアの民謡や読み聞かせはこちらで楽しむことができる。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファでは自分の好きな場所に座り、自由に寛いでいる。食事の時には、気の合う仲間が合席している。	※	個人個人が、おちつけて・寛げる環境をスペースを作る工夫をしたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真を飾ったり、本人の好みのもの、使い慣れたものを使用している。 (外部評価) 使い慣れた筆筒やイス、ベッド、テレビ等を持ち込み、家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。それまでの生活に合わせて洋室に畳を入れ、和室部分を作っている方もいる。民家改修型の居室は、広縁や床の間も残してあり味わい深い。趣味を楽しむ方の居室には、碁盤や絵筆等も置かれている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室の温度調整はこまめに行なっている。窓の開閉などにより換気にも気を配っている。	※	各部屋に温度計を設置し、居室の温度管理をしていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下に手すりを設置、玄関先に椅子を置いたり、環境改善を図り利用者の安全確保、行動の支援を行っている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の不安、混乱を取り除くよう、その都度スタッフ全員で話し合っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ユニットの周りにはベンチを配置、草花を眺めることが出来る様にしている。また、自由に散歩・外気浴が出来る様に支援している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価)	① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の利用者さんとの会話の内容・仕草・行動から利用者さんの思いや願いを感じ取るようにしている。特に利用者さんが発する言葉から感じ取れるようにしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価)	① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	午前・午後のお茶の時間などを利用し一緒にお茶を飲んだり会話を持つようにしている。朝夕の食事と一緒に食事をしながら関わりを持つようにしている。個々のニーズにあった関わりをしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	大まかな時間は決めているが本人の希望を優先しながら支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	普段から楽しく過ごして頂ける様に明るく声掛けをし、よい雰囲気を作っている。コミュニケーション(声を掛ける)を持つことで喜んで頂いている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	散歩や買い物など本人の希望があれば一緒に出かけている。家族の協力も頂きながら本人の行きたい所へドライブをして頂いたり普段の日常会話の中で利用者さんの行きたいところ等を把握し外出の機会を持つ様になっている。スタッフの人数不足もあり充分とは言えないが。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価)	① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日、身体面・精神面の観察を細やかにを行い、変化を感じたときには、すぐに対処出来る様にしている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価)	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者さんによっては現実的な不満や不安(自由がない。～をさせてくれない)と訴える方もいる。そういった方に対しては、その要望に応じられる様に支援を心掛けている。逆に自分の感情・気持ちを表に出せない方に対しては関わりの時間が少なくなっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価)	① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時には家族とのコミュニケーションを多く持つようにし、家族の要望などを受け止められるように心がけ家族の意向が日常の支援に取り入れるように努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価)	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに ④ ほとんどない	家族の面会はあるが地域の方が訪ねて来る事はほとんどない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	自治会の行事にも誘って下さり、また、事業所側の行事にも参加して下さったり、地域の方との深まっている。ボランティアの訪問(民謡、読み聴かせ、傾聴ボランティア、保育園児など)も定期的にある。近隣の住民の方とも関わりが多く持てるようになっている。(野菜をくれたり犬を見せに来てくれたりする)
98	職員は、活き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者には常に笑顔で明るく接しているが利用者のことを親身に考え対応しているため精神的に疲れているスタッフが多い。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	現実的な不満や不安(自由がない!～させてくれない)と、訴えをされる。本音を言われることを耳にする。スタッフには気を使ってくれここはとってもよい所だと言って下さり、どう思っているのか実際の気持ちが解らない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	何らかの不安、不満を持っていると思う。出来る限り家族とのコミュニケーションを持つようにし、対応が出来る様に心掛けている。家族とのトラブルにはいたっていない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

1. ホーム全体としての理念を基に、ユニットとしての月間目標・行動目標を立て支援の方向性を意思確認しながら実践する。
スタッフ間の情報の共有・連携を図れる様コミュニケーションの充実を図る。
2. 入居者の方と一緒に過ごす機会を多く持つ。
◎ ティータイム、食事、余暇活動など
3. 社会資源を有効に活用、生活環境の拡大を図る。
◎ 図書館を利用、個々の入居者が興味のある本を借り活用する。昔の記憶、思い出して頂き、会話が広がるきっかけにして頂く。